

# 助詞ネ／サの機能と用法

言語学・応用言語学専門分野 1LT14096R 豊村未来

## 1. はじめに

助詞ネ／サには、文中の文節末に付き、語勢を整えたり、感動を高めたりする働きがある。森田（2007）は、これらの助詞は、対聞き手意識から発する念押しのための助詞であり、会話文において用いられるとしている。

- (1) a. でも {ネ／サ}、良いところもあると思うよ。
- b. 友達に {ネ／サ}、送ってもらったんだ。
- c. 本当は {ネ／サ}、昨日言うつもりだったんだ。
- d. すごくたくさんの人が {ネ／サ}、集まっていたんだよ。

日常会話において頻繁に使用されているにも関わらず、このような働きをする助詞について深く考察している研究論文は少ない。卒業論文では、これらの助詞ネ／サに着目し、容認度調査の結果をもとに考察を行った。

## 2. イントネーション型の分類

会話文において用いられるこれらの助詞とイントネーションとの関係は無視できない。郡（2016）も、助詞の有無とイントネーション型の使い分けには深い関係があるとしている。そこで、4つのイントネーション型を用意し、それぞれのイントネーションで助詞ネ／サを発音したときの容認度を調査した。

記号	特徴
H	直前より高く発音する。
L	直前より低く発音する。
HL	直前より高く発音した後に下げる。
HLH	直前より高く発音した後に下げてまた上げる。

## 3. 調査結果

容認度調査を行ったところ、文節末に付く助詞がネであるかサであるかによって、またはイントネーションによって、容認度に差が生じる場合があることが明らかになった。表は、容認度調査の結果を、ネ／サの直前の語の品詞を基準にしてまとめたものである。容認度が高い順に、◎、○、△とする。

直前語の品詞	例文数	H		L		HL		HLH	
		ネ	サ	ネ	サ	ネ	サ	ネ	サ
感動詞	6	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	△
助詞	21	○	○	◎	○	◎	◎	△	○
接続詞	13	○	○	◎	◎	◎	◎	△	○
副詞	10	○	○	◎	◎	◎	◎	△	△

### 3.1. 感動詞＋ネ／サ

感動詞＋ネ／サのとき、ネの場合の容認度の方がサの場合の容認度よりも高い傾向にある。

- (2) a. ok さあネ、僕にはよく分からないよ。 (H)

- b. \*さあサ、僕にはよく分からないよ。(H)
- (3) a. ok なるほどネ、君の言う通りだ。(H)  
b. \*なるほどサ、君の言う通りだ。(H)

### 3.2. 副詞+ネ/サ

副詞+ネ/サのとき、ネの場合の容認度とサの場合の容認度の差はほとんど生じない傾向にある。

- (4) a. ok まるでネ、夢のようだったよ。(H)  
b. ok まるでサ、夢のようだったよ。(H)
- (5) a. ok けっこうネ、大変なんですよ。(HL)  
b. ok けっこうサ、大変なんですよ。(HL)

### 3.3. イントネーション

HL での容認度は高く、HLH での容認度は低い傾向にある。

## 4. まとめ

卒業論文では、文中の文節末に付く助詞ネ/サに着目し、その機能と用法について、容認度調査の結果をもとに考察を行った。その結果、助詞ネ/サの直前の品詞やイントネーション型が容認度を左右しているということが分かった。

この調査では、聞き手との関係性や言語使用状況については考慮しなかった。これらの要素は話し手に大きな影響を与えるものであると考えられる。これらの要素が与える影響を踏まえた考察をすることを今後の課題としたい。

## 5. 参考文献

- 郡史郎 (2016) 「間投助詞のイントネーションと間投助詞的イントネーション：型の使い分けについて」 『言語文化研究』 42:61-84.
- 森田良行 (2007) 『助詞・助動詞の辞典』 東京：東京堂出版.